



水上 務 議員



録画映像

運動公園に関する件

問 樹木の保存を検討する必要があるのでは

答 市長
各種団体等とのワークショップ、パブリックコメントを実施した上で、工事を進めている

問 運動公園リニューアルオープンのため工事中ですが、樹木を伐採しており、市民から「もう少し樹木の保存を検討する必要があるのではないか」との苦情が寄せられています。

どうして今日のように伐採されたのかお尋ねいたします。

答 (市長) 昭和53年の供用開始から約46年が経過し、公園施設等の老朽化が進んでいたため、本市では、自由広場、花見広場、噴水広場などの低・未利用空間を活用し、スポーツ目的以外の公園利用者の拡大を目指し、リニューアル事業を実施しているものです。

事業の実施に当たっては、令和元年度に市内スポーツ協会の各団体、市内小学

校の児童などをメンバーとしたワークショップを計3回開催し、運動公園に対する現状のイメージ、リニューアルに当たっての提案などをいただくとともに、スポーツ合宿利用者の意見も参考にしながら、基本計画を策定し、令和2年度にはパブリックコメントを実施し、提出された意見の中から、必要と判断したものを実施設計に反映させています。

その中では、「公園全体が暗く死角が多いため、明るくして欲しい」、「見通しが悪く、木を間引いてほしい」といった意見などがあつたほか、ワークショップからの提案により、造成する親水広場には水を循環させるシステムを使用するため、落ち葉などが混入しないように対策する必要もあります。

維持管理面から申しますと、地下に埋設されている雨水排水管の幹線が樹木の根によって破損し、管内に根が侵入することで落ち葉が詰まり、噴水広場が浸水するといった被害やその付近の園路にある雨水枡が、落ち葉によって詰まり、浸水するといった被害の発生をたびたび確認していたことから、その対応も必要となっていました。

また、運動公園では幸いにして大きな犯罪は起きていませんが、市内にある他の公園では、樹木がうっそうとしており、人目に付きにくい状況となっており、児童に対する不審者事案なども発生している状況です。

これらのことを総合的に勘案し、新たに造成する親水広場や、よちよち広場となるエリアの樹木については、移植が可能であった樹木を移植し、それ以外は伐採しています。

花見広場の桜については、伐採せずに造成したいところでしたが、日照不足と湿気による、生育不良のため、やむを得ず一度伐採し、暗渠整備をした後に、再度、桜やツツジなど数種類の樹木を植樹することとしています。

その他の樹木については、病気などで今後の成長が望めない樹木を選別して伐採しており、今後においても、運動公園を安心・安全に利用していただくことができるよう、樹木の適正な管理に努めてまいります。

問 CO₂削減等で緑を増やしている時代に逆行するのではないかと市民からの苦情がありました。各団体等の人たちは、木に対して全く認識なく、整備というものの答えが出ているのか。

答 (都市住宅課長) 市民の方々が参加したワークショップでは、樹木を減らして

もらいたいとの意見が多くありました。また、パブリックコメントでは、樹木に対する意見はなく、工事中においても、伐採に対する苦情等はありませんでした。



樹木が伐採されて工事が進んでいる運動公園

問 当初、運動公園を造った時、当時の町長は、防風の意味も含めて樹木は必要だと植えたのです。

確かに四十数年たっていますが、大事な木なので、なぜ簡単に切るのかと思っっています。

また、リニューアルオープン後、年間何人の利用者数を目標に立てているのか。

答 (都市住宅課長) 目標利用者数について目標人数を立てていませんが、6年9月20日から部分的に供用開始しているよちよち広場については、11月4日までの46日間約3千400人の幼児や児童、保護者が訪れており、好評であると考えています。